

資料 3

平成25年6月18日
気 象 庁

第126回火山噴火予知連絡会
霧島山（新燃岳）の火山活動に関する検討結果

新燃岳の火山活動は落ち着いた状態が続いています。しかし、現在でも小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。

霧島山（新燃岳）では、平成23年9月7日の噴火以降、噴火は発生していません。

新燃岳火口直下の火山性地震は昨年5月頃から減少し、今年3月及び4月に一時的にやや増加しましたが、全般には少ない状態で経過しています。1日あたりの二酸化硫黄の放出量も、昨年7月以降、数10トン未満で検出限界に近い状態となり、今年に入ってから検出されていません。火口内の溶岩の状態にも特段の変化は認められません。

GPS観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張は、平成23年12月以降鈍化・停滞しています。他の領域の地殻変動データにも特段の変化は認められていません。霧島山周辺の地震活動にも、顕著な変化は認められません。

以上のように、マグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止しており、新燃岳の火口直下の活動も大きな変化がなく、火山活動は落ち着いた状態が続いています。

しかし、火口には高温の溶岩が溜まっており、引き続き、小規模な噴火が発生する可能性は否定できないことから、新燃岳火口周辺では警戒してください。

なお、地下からのマグマの供給が再開すれば、本格的な噴火が再開する可能性は残っています。

今後、火口及び火口近傍の観測体制を強化し、注意深く監視していく必要があります。

降雨時の泥流や土石流にも引き続き警戒してください。降雨に関する情報に留意してください。